

平成28年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 平成28年3月10日
 質問者 民主党・道民連合 広田 まゆみ 議員
 答弁者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 人口減少時代の産業振興・地域振興のあり方について</p> <p>(七) 空き家対策と空き家を活用した新たな形態のホテルの導入について</p> <p>2 イタリア発の新たな形態のホテル「アルベルゴ・ディフーズ」(地域分散型ホテル)の北海道での導入について</p> <p>(広田議員)</p> <p>イタリア発の新たな形態のホテル、アルベルゴ・ディフーズ、地域分散化ホテルの北海道での導入について伺います。</p> <p>人口減少時代の地域振興を考えていくうえで、先程空き家対策について伺いましたが、例えば空き家のように、マイナスと思えるものを地域の資産として光をあてていく発想も重要です。イタリアでは、震災で被害を受けた山奥の小さな村々の復興のために、複数の空き家をホテルとして活用し、地域再生に成功した事例があります。</p> <p>アルベルゴ・ディフーズは、直訳すると分散型のホテルです。普通のホテルであれば、一つの建物に、受付も宿泊も、食堂もつくられていますが、アルベルゴ・ディフーズは一つの施設で完結せず、分散することが求められています。</p> <p>地元で設備投資の過度な負担をかけず、空き家や地元の飲食店などを活用するため、何らかの特典制度は必要ですが、北海道の地域を活かしたイタリア初の新たな形態のホテルの導入に向けて、道としての見解を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>(広田議員)</p> <p>アルベルゴ・ディフーズ、空き家を活用した新しいホテルの導入の検討について指摘させていただきます。</p> <p>今回、アルベルゴ・ディフーズ、民泊について多くの疑問がなされました。知事からは、北海道にふさわしい民泊のあり方について検討していく考え方が示されました。このイタリア発のホテルは、これまでのような小中学生の修学旅行を対象としたような日本のグリーンツーリズム、農家民泊とは違う段階での検討を強くお願いをしたいと思います。</p> <p>ホテルと言っても、既存の空き家や空き店舗なども使いますので、なんらかの特典制度の活用は必要ですが、民泊というよりも、地域をまるごと出来る北海道初の新たな形態のホテルとして、従来の農家民泊を主体とした日本版グリーンツーリズムの、これまでの成果を踏まえつつも、イタリアのアグリツーリズムのような北海道発の新たな地域観光の付加価値向上、ブランディングにつながるような検討の方向性などについて、強く指摘をさせていただきます。</p>	<p>(知事)</p> <p>新たな形態の宿泊サービスについてであります。道では、これまで、本道を訪れる国内外の観光客の方々に対し、農山漁村の魅力や地場の新鮮な農水産物を提供しながら地域住民との交流を楽しむグリーンツーリズムを展開しており、農業体験を活用した教育旅行を受け入れるなど、農家民泊の推進に取り組んできたところであります。</p> <p>こうした中、分散した空き屋などを活用し、大規模な設備投資を行わずに、宿泊や食事を地域で一体的に提供しているイタリアでの取組は、過疎化の進んだ地域の再生や地域の活性化に寄与しているものと認識をしております。</p> <p>道といたしましては、新たに、庁内横断的な検討会を設置をし、既存の宿泊業との関係や安全面・衛生面の確保など様々な課題の抽出や、分散型の宿泊サービスも含めた先進的な取組事例の調査を行うなど、北海道にふさわしい民泊のあり方について検討してまいりたいと考えております。</p>